

正しく動き、美しくつながり、強く創り出す「未来を生き抜く力」を育成する学校



「たい」のあふれる時津小



令和5年4月24日（月） 発行人：校長 森内 秀学

触れ合うことで通じるもの



新型コロナが猛威を振るっている頃、厳禁だったのは、三密でした。中でも、人に触れるなんてご法度でした。

でも、左の写真を見て下さい。これは、4月20日（木）に行われた1年生の歓迎集会で、ジャンケン列車をしている様子です。6年生が1年生の肩に手を置き、先頭同士でジャンケンをするよう促しているのです。勝っても負けても、みんな笑顔。ああ、日常が戻ってきているな、これが学校だよな、と思いました。

けがや病気の治療をすることを「手当て」と言いますが、「手を当てる」ことによって得られる癒しの効果が、その語源だという話を聞いたことがあります。肩に手を当てられ、心がほぐされ、笑顔になっていく1年生の顔を見ながら、触れ合うことで通じるものはきっとある、コロナが落ち着いたら子どもの心はもっとあったかくなるぞ、と確信しました。



聞きたい確かめたい→やる気 UP!

聞きなさいと言われて聞くのと、聞きたくて聞くのでは、まるでやる気が違います。左の写真は、2年生の国語。自分がよいと考える音読の工夫について、友達と確かめ合ったりよい方法を教え合ったりしている場面です。聞きたい相手を選び、確かめたいことをたずねる。まさに、「たい」があふれていますね。

聞いて学ぶ・体験して学ぶ～交通安全教室開催

聞いた時は分かったつもりだけど、やってみるとできない…。そんなことを防ごうと、体験を交えた交通安全教室が、4月24日（月）に行われました。壁に見立てた衝立のせいで、一步踏み出して顔をのぞかせないと左右が見えないことに気付いた子どもたち。これからは、きっとそおっと確認してから歩き出すことでしょう。大人も気をつけたいですね。

